

# NPB と BC リーグ選手のセカンドキャリアサポート

桜美林大学澤井和彦研究室 A

○大森雄貴 伊東悟 水谷文哉  
谷戸沙耶佳 田村智子

## 1.はじめに

近年アスリートのセカンドキャリアに注目が集まっている。たとえばプロ野球のトップ選手の年俸は4~5億円、平均年俸は3,678万円、一軍の最低年俸は1,500万円だが、二軍の最低年俸は440万円、育成選手は240万円である（プロ野球選手会、2014）。プロ野球選手の平均引退年齢は30歳前後と言われているが、一軍経験のない高卒選手の平均在籍年数は約4年と言われている（黒田、2004）。われわれはどうしてもトップ選手に目が行きがちだが、ほとんどの選手は一軍で活躍することなく、決して恵まれているとは言えない待遇でプレーし、静かに球界を去っている。

また近年、四国・九州アイランドリーグやBCリーグ（ベースボールチャレンジリーグ）といった地方の独立のプロリーグが設立されるようになったが、その選手の待遇はNPBの選手よりかなり低いものと思われ、そのセカンドキャリアについてはほとんど知られていない。そこで本研究では、NPBと独立リーグのBCリーグを対象とし、その選手のプロフィールとキャリアの状況と課題を明らかにし、その支援策について検討した。

## 2.方法

### 2.1 独立リーグ選手のプロフィール調査

キャリアを考えるうえで年齢と学歴といった経歴は重要な意味を持つが、そうした基本情報はほとんど知られていない。そこでNPB選手とBCリーグの公式HPより選手の年齢や入団前の最終学歴などを集計し、その特徴を分析した。

### 2.2 BCリーグ球団におけるセカンドキャリアの実態とサポートに関する調査

BCリーグに所属するクラブにメールを送り、そのセカンドキャリアについてアンケート調査を行った。

■調査対象；群馬ダイヤモンドペガサス 信濃グランセローズ 富山サンダーバーズ○新潟アルビレックス○ 石川ミリオンスターズ 福井ミラクルエレファント○ 福島ホープス○（○のついたクラブから返信あり）

また来季より参入の「福島ホープス」にはインタビュー調査を行った。内容は選手の採用や引退後のキャリア、キャリア支援の内容などである。

### 2.3 BCリーグクラブキャリア支援企業調査

BC リーグクラブはそれぞれ選手のオフシーズンや引退後の雇用を受け入れる支援企業と提携しており、そうした企業にメールでアンケート調査を行った。調査内容は選手のキャリア支援の内容などである。

## 2.4 デュアルキャリアに関する調査

近年、アスリートのセカンドキャリアを考える上で話題に上るようになった「デュアルキャリア」について、元オーストリア女子柔道代表選手であり、デュアルキャリアに関する研究を行っているライトナー・カトリン・友海子助教にお話を伺った。

## 3.結果

### 3.1 BC リーグ選手のプロフィール

NPB 選手の平均年齢は 27.3 歳、BC リーグ選手の平均年齢は 24.2 歳であった。年齢分布をみると（図 1、図 2）

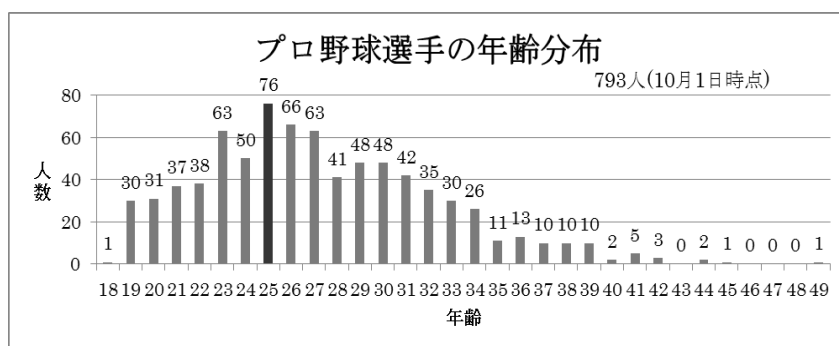


図 1 NPB 選手の年齢分布

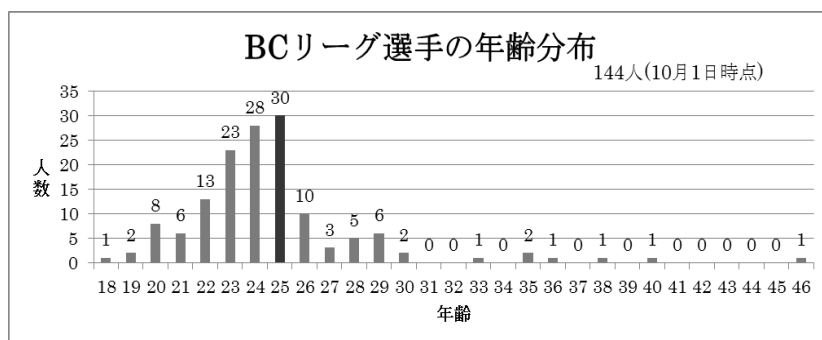


図 2 BC リーグ選手の年齢分布

BC リーグ、NPB とともに最も分布の多い年齢は 25 歳であるが、BC リーグでは 26 歳以降選手数が激減している。これについて BC リーグ関係者に聞くと、26 歳以降では NPB のドラフト指名率が激減するため、独立リーグ在籍選手にとっては 26 歳が人生の分岐点になっているからだという。独立リーグは NPB を目指すリーグであるため、収入面から

考えても長く在籍しようと考えている選手は少なく、そのような選手を在籍させることは球団も望んでいないということである。また BC リーグの最終学歴は、高卒が 22%、大卒が 42%と大卒が多く、また高卒選手のうち 41%がプロを経験している。つまり、高卒でいきなり BC リーグに入団する選手はかなり少ない。それについては選手の親が独立リーグへの参加に反対するケースが多いためという。

一方、NPB では高卒が 41%、大卒 33%、社会人出身が 22%、独立リーグ出身が 4%と高卒が最も多い。ただし、選手数の多い 23~26 歳の経歴を見ると、高卒 37%に対し大卒 44%と逆転している。これは黒田らが示しているように、高卒選手は入団後早い段階で能力を見極められ、戦力外通告を受けるケースが多いためと考えられる。実際に昨シーズン戦力外通告を受けた選手経歴の内訳をみると、高卒 42%、大卒 32%と高卒の割合が高かった。

こうしてみると、BC リーグでは特に大卒で入団し、25 歳で引退する選手のキャリアサポートが、NPB では高卒で入団し、20 代前半で戦力外となる選手のキャリアサポートが問題になっているように思われる。

### 3.2 BC リーグ球団におけるセカンドキャリアの実態とサポート

BC リーグの基本的な雇用形態は、給与が支給されるのは 4/15~9/15 までのシーズン期間のみであり（契約期間は 3 月半ば~9 月半ば）、選手 1 人の報酬はサラリーキャップがあって年間 240 万円と決められており、月収 15 万円程度という。

選手のキャリア支援について、たとえば福井ミラクルエレファントでは軟式野球部のある地元企業に過去 7 人ほど送り出しており、クラブで野球、人格ともに優れた退団選手を毎年 1~2 名就職させているという。球団の支援団体として『福井を元気にする会』という地元企業 17 社によって構成される団体があり、オフシーズンの選手のアルバイトの斡旋もしているという。また福島ホープスでは、福島県内の企業が深刻な人材不足に悩んでおり、挨拶がしっかりとでき、上下関係ができて、元気で体力のある人材を欲しがるといふ企業が多く、そうした企業が出資ならびにスポンサーになってくれているという。つまり、企業のスポンサーの理由がその人材にあるということである。

一方、そうした BC リーグ球団をサポートする企業によれば、ある企業では新卒採用を大学の野球部を中心に行っており、BC リーグ球団の選手に対しても、現役時代からキャリアコンサル、ビジネス研修、職業紹介、紹介後の修行サポート、オフシーズンのアルバイト先紹介をビジネスとして実施し始めたという。アルバイトは数名実績があり、セカンドキャリアについてはまだ実績はないが希望者は数名いるという。

### 3.3 わが国におけるデュアルキャリア

デュアルキャリアとは「エリート競技者としてのパフォーマンスやトレーニングに必要な環境を確保しながら、現役引退後の雇用に必要な教育や職業訓練を受け、将来に備える」

という概念であり、欧州では競技と勉強、競技と仕事がまったく別々で、特にトップレベルの競技者が勉強や仕事と両立することが難しかったため、両立をより容易にする条件を整えようということで検討されはじめたという。これについては、日本は学校スポーツであり、環境的にはデュアルキャリアの条件が整っている。それにもかかわらず、選手の多くは競技以外に対する関心が乏しく、在学中は専門競技にのみ専心し、デュアルキャリア環境が生かされていないという。

#### 4. 施策の提言

以上のような調査結果から、本研究では次のような政策・施策を検討した。

##### 4.1 BC リーグ～地域と連携したキャリア支援システムの構築～

BC リーグでは、予想していた以上に選手のデュアルキャリアに配慮した仕組みを整えていた。また選手のキャリアへの意識も高いようである。当の BC リーグ関係者も、もっとリーグのセカンドキャリアへの取り組みについて理解してもらえればと話しており、認知度を高める必要があるだろう。また、BC リーグ球団のなかでも群馬は 23 人中 12 人をあえて地元出身者で構成していた。このように、BC リーグのキャリア支援を地域の若者の就職支援策と一体化し、自治体や地元企業と提携して地域の就職支援関係の補助金を得るなどしてより充実させていくことが考えられる。一方、高卒選手は現在少ないが、これも地元の大学や専門学校と提携した高卒選手用のデュアルキャリアシステムの構築が考えられる。

##### 4.2 NPB ～若手高卒引退選手のキャリアサポート～

NPB ではやはり高卒選手のキャリア支援に絞った施策が重要と思われる。MLB とマイナーリーグの関係のように、独立リーグと連携し、選手のやりとり、プレー環境の提供等を行う。あるいは高卒若年選手をいきなり戦力外にするのではなく、育成選手や練習補助（打撃投手やブルペンキャッチャー）とし、大学、専門学校、企業（オフシーズンのアルバイト）などと連携したデュアルキャリアシステムの構築が考えられる。この部分については、高卒で NPB を離れる選手のために、NPB や選手会、プロ野球 OB クラブなどがメンバーから原資集め、拠出することも考えられると思う。

#### 5. 参考資料・文献

黒田次郎ほか「日本プロ野球のドラフト制度に関する研究(1)」運動とスポーツの科学、Vol10(1)、2004、pp27-36

プロ野球選手会公式ホームページ

BC リーグ[ベースボール・チャレンジ・リーグ] 公式ホームページ

日本プロ野球機構オフィシャルサイト